

矯正治療前後における QOL 評価についての検討

・はじめに

近年急速に進む医学の進歩に同調し、治療の目的は延命から生活の質の向上へと大きく方向転換してきました。このような価値観の変化の中で患者さんの視点に立った治療成果の評価指標としての QOL アンケート調査の重要性が見直されて参りました。歯科領域においても口腔関連 QOL 調査がこれまで行われてきましたが、矯正治療患者さんを対象とし、詳細な QOL 評価を行った調査はほとんど行われてきませんでした。本調査で使用される質問票は、各国において利用されていますので、非常に信頼性が認められているものです。本研究の目的は、矯正治療患者さんおよび矯正未治療の方を対象とし、2 種類の質問票を用いた QOL 調査を行い、治療前後における QOL 改善度を評価することです。さらに QOL 評価に関して矯正未治療の方との比較検討を行う予定です。

・対象

本研究の目的を理解し、本研究への参加の同意が得られた当科受診の 15 歳以上の一般矯正治療患者さん男女計 100 名および顎変形症患者さん男女計 100 名およびコントロール群として、一般集団の中から本調査への参加同意が得られた 15 歳以上の矯正未治療者男女計 100 名を対象とします。

・研究内容

この研究への参加に同意いただきますと、下記に示しますアンケート調査にご協力いただくこととなります。すなわち、矯正治療前後において QOL 評価に関する 2 種類の質問票(OHIP(表 1), OQLQ(表 2))にお答えいただきます。統計分析を用いて、QOL 改善度における矯正治療の影響についてその傾向を明らかにします。

表 1 OHIP (日本語版) 質問票

過去1ヶ月間に、次のようなことがありましたか？ 一番よくあてはまるものに○印をつけて下さい	全くな い	ほとん ど ない	時々 ある	よく ある	いつも
見た目の良くない歯に気づいた					
歯, 入れ歯, かぶせ物に, 食べ物がはさまったり くっついたりした					
入れ歯やかぶせ物が, きちんと合っていないと 感じた					
口の中につらい痛みを感じた					

あごや、あごの関節が痛んだ					
あごの関節の音に悩まされた					
熱いものや冷たいもので歯がしみた					
歯が痛んだ					
歯ぐきが痛んだ					
口の中にヒリヒリ痛むところがあった					
口の中が乾いた					
入れ歯やかぶせ物が不快だった					
歯科的な問題で、悩んだり不安を感じたりした					
歯科的な問題で、みじめな気持ちになった					
歯、口の中、入れ歯、かぶせ物の見た目が気に入らないと感じた					
入れ歯やかぶせ物の問題で、食べ物が食べられなかった					

歯、口の中、入れ歯、かぶせ物の問題により、過去1ヶ月間に、次のようなことがありましたか？ 一番よくあてはまるものに○印をつけて下さい	全くない	ほとんどない	時々ある	よくある	いつも
食べ物が噛みづらかった					
発音しにくかった					
外見が悪くなったと感じた					
口臭を感じた					
味覚が鈍くなったと感じた					
消化が悪くなったと感じた					

頬を咬んでしまった					
食べ物が飲み込みにくかった					
頭痛がした					
食べていて不快な感じがした					
人前を気にした					
気が張り詰めたり，緊張したりした					
話し方が不明瞭になった					
話す言葉を聞き間違えられた					
食べ物の風味や味わいが感じにくかった					
食べ物の食感が感じにくかった					
きちんと歯磨きできなかつた					
特定の食品を避けなければならなかつた					
食事が十分にとれなかつた					
笑うことをためらった					
歯，口の中，入れ歯，かぶせ物の問題により，過去 1 ヶ月間に，次のようなことがありましたか？ 一番よくあてはまるものに○印をつけて下さい	全く ない	ほとん ど ない	時々 ある	よく ある	いつも
食事を中断しなければならなかつた					
眠りが妨げられた					
気が動転した					
リラックスできなかつた					
ゆううつになった					
物事に集中できなかつた					
少しでも恥ずかしい思いをした					
外出を避けた					

配偶者や家族に対して寛容でなかった					
周囲の人とうまくやっていけなかった					
周囲の人に対して少しでもイライラした					
日常の家事や仕事に差しさわった					
健康状態が悪くなったと感じた					
経済的な損失が生じた					
仲間とあまり楽しく過ごせなかった					
日常生活で満足していなかった					
まったく役目を果たせなかった					
仕事や家事で全力を尽くせなかった					

表2 OQLQ（日本語版）質問票

次の記述を注意深く読んで下さい。あなたにとってそれぞれの記述がどれくらい重要かを調べる目的があります。1, 2, 3, 4またはN/Aを○で囲んで下さい。

- 1 ほんの少しそうであると思う
4 非常にそうであると思う
2 + 3 上記の中間
N/A 自分にはあてはまらない、または全く気にならない

	1	2	3	4	
ほんの少し				非常に	
そうであると思う			そうであると思う		
1. 自分の歯の見た目について気にしている	1	2	3	4	N/A
2. 噛み切ることに問題がある	1	2	3	4	N/A
3. 咀嚼することに問題がある	1	2	3	4	N/A
4. 歯の問題で食べるのを避けている食べ物がいくつかある	1	2	3	4	N/A
5. 公共の場で食事するのが好きではない	1	2	3	4	N/A
6. 顔や顎に痛みがある	1	2	3	4	N/A

7. 自分の顔を横から見るのが好きではない（側貌）	1	2	3	4	N/A
8. 鏡の前で自分の顔を長時間観察する	1	2	3	4	N/A
9. 鏡の前で自分の歯を長時間観察する	1	2	3	4	N/A
10. 自分の写真を撮られるのは好きではない	1	2	3	4	N/A
11. 自分が映っているビデオをみるのは好きではない	1	2	3	4	N/A
12. 他人の歯をじっと見てしまうことがよくある	1	2	3	4	N/A
13. 他人の顔をじっと見てしまうことがよくある	1	2	3	4	N/A
14. 自分の外見について気にしている	1	2	3	4	N/A
15. 初めて人に会うとき口を覆ってしまう	1	2	3	4	N/A
16. 初めて人に会うときは不安である	1	2	3	4	N/A
17. 自分の外見について他人が傷つけるようことを言うのではないかと心配になる	1	2	3	4	N/A
18. 社会生活において自信がない	1	2	3	4	N/A
19. 人と会っているとき笑うのは好きではない	1	2	3	4	N/A
20. 自分の外見について考えると時々憂鬱になる	1	2	3	4	N/A
21. 時々人が自分をじっと見ている気がする	1	2	3	4	N/A
22. たとえ冗談だと分かっているにもかかわらず、自分の外見に関してのコメントを聞くと、とてもショックを受ける	1	2	3	4	N/A

・ 患者さんの個人情報の管理について

本研究の実施過程およびその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。回答済みのアンケート調査用紙は、施錠できる資料庫にて保管します。個人情報の管理は、個人情報管理責任者である九州大学大学院歯学研究院歯学部門口腔保健推進学講座歯科矯正学分野・教授・高橋 一郎の責任の下、厳重な管理を行います。

・ 研究期間

研究を行う期間は承認日から 2014 年 3 月 31 日までです。

・ 医学上の貢献

矯正治療により形態や機能のみならず、患者が求める QOL の改善傾向を明らかにすることは、矯正治療の意義の明確化あるいは歯科矯正学の EBM という観点からも有意義であると考えられます。

・ 研究機関

研究責任者：九州大学大学院歯学研究院歯学部門口腔保健推進学・教授・高橋 一郎

研究分担者：九州大学病院歯病矯正歯科・講師・五百井 秀樹

研究事務局：九州大学大学院歯学研究院歯学部門口腔保健推進学歯科矯正学分野医局

連絡先担当者：九州大学病院歯病矯正歯科・講師・五百井 秀樹

電話番号：092-642-6462

E-mail: ioi@dent.kyushu-u.ac.jp